

『第2回リカジョ賞』の各賞が決定いたしました



公益財団法人日産財団 第2回リカジョ賞の選定 <講評>

選考委員長 長谷部 伸治



公益財団法人日産財団では、昨年度より理科教育賞に加え、女子児童・生徒の理科への関心を顕著に高めたと評価される実践に取り組んだ個人または団体を対象とした「日産財団リカジョ賞」を創設した。

本年度は、2018年9月1日から2019年2月28日までの公募期間に、昨年度（14件）を上回る申請を得た。これまでに他の賞を受賞した活動やメディアに取り上げられ話題となっている活動も多く、非常に内容の充実した18件の応募の中から、本財団理科教育助成選考委員会において書面選考を行い、第2回日産財団リカジョ賞候補として下記の3件を選定した。そして、第二次書面選考において各申請の実践内容を精査し、1件をリカジョ賞グランプリに、2件を同準グランプリに認定した。

【第2回リカジョ賞 グランプリ 1件】

和歌山信愛中学校・高等学校 教諭 酒井 慎也 氏:理科の中でも女子生徒が比較的苦手とする物理・化学分野について、授業や部活動を通じた実験・観察体験カリキュラム「Wakayama shin-ai Science Program (WSP)」の持続的な活動を評価する。特に、中高一貫校である特長を生かして高度な研究テーマにチャレンジしている点や、企業や大学と連携して活動を行っている点を高く評価する。HP上の「サイエンス・ラボ」の発信内容を見ても、生き生きと活動している様子がうかがわれる。この受賞を機に、申請書でも述べられている、中学校物理分野のオリジナル実験書の充実を期待する。

【第2回リカジョ賞 準グランプリ 2件】

チーム チョコレイト・サイエンス:チョコレートという身近で女子児童・生徒が関心の高い素材を題材として、その品質に結晶構造が関与している点に着目し、科学が実生活と深く結びついていることを広報する活動を評価する。特に、結晶構造の作り分けという高度な内容を、チョコレートを題材とすることにより、参加者に飽きさせずに実験や解説を行うプログラムに仕立てている点は、非常に洗練されたものとして高く評価する。

学校法人大谷学園 大谷中学校・高等学校 科学部:電気は生活に不可欠な要素であるが、女子生徒にとって物理の中でも苦手意識が高い分野である。そのような分野において、身近に入手できる材料を使って、市販のバンデグラフ型起電機以上に実用的な実験装置を製作し、かつ改良を継続している活動を評価する。今後、展望で述べられているように、発生した電圧の測定法の確立等、現象の定量的な把握についての活動に期待したい。

<グランプリ>

— 盾と副賞 20万円 —

和歌山信愛中学校・高等学校
酒井 慎也 氏

『女子校から未来の科学者を育成する
～理科好きリカジョ育成プログラムWSP～』



写真右 酒井 氏

グランプリ受賞者コメント (酒井 慎也 氏)

この度は、日頃の取り組みを評価していただき、第2回リカジョ賞グランプリを受賞できたこと、大変嬉しく思います。このような栄えある賞を受賞できたのは、学校や保護者の方々の理解、科学部等の活動にご協力くださる企業や大学の方々、そしてなによりも、日々の授業で自分の至らないところに気づかせてくれる和歌山信愛の生徒達のおかげであります。心から感謝を申し上げます。

私は小さい頃から理科が好きで、学校の授業における観察や実験をとても楽しみにしていたことを今でも覚えています。理科の楽しさや面白さ、そして自然科学の凄さを生徒達に伝えるための最善の方法が「観察と実験」であることは、大学の恩師に教えていただきました。

授業で行う「観察と実験」を通じて、理科を楽しみ、自然科学に感動する経験が子どもたちの中に残っていれば、後は子どもたちの方から主体的に取り組む、さらなる高みへ向かっていってくれることと信じております。今回の受賞を励みにして、自ら主体的に学んでいく理科好きな生徒の育成を目指して、これからも理科教育の発展に貢献していきたいと思っております。最後になりましたが、本実践を取り上げてくださった日産財団の皆様に厚く御礼申し上げます。

<準グランプリ> — 盾と副賞 10万円 —

チーム
チョコレート・サイエンス

代表受賞者
写真中央 山田 氏
写真右 餅田 氏



学校法人大谷学園
大谷中学校・高等学校
科学部

写真右
顧問 豊田 氏



【第3回リカジョ賞募集開始！】 後援: 内閣府

2019年6月10日より、第3回リカジョ賞の募集を開始します。既に日産財団HPに募集要項や応募フォーマットは掲載していますので、ぜひご応募ください！
(応募〆切: 2020年2月28日)

皆様のご応募、お待ちしております！

